

菱屋酒造店

「津波乗り越えた「千両男山」5月に販売

宮古市唯一の酒蔵、菱屋酒造店(宮古市鍛ヶ崎下町5-1-24)は2階の床まで津波に浸かり、建物の木造部分や製造設備などはすべて流されたが、貯蔵室で一部無事に残った清酒が見つかった。この清酒に復興を願う新ラベルを貼り、5月上旬からメールで受注し販売する。齋藤専務(60)は「必ず酒造りを再開します」と話す。

「必ず酒造り再開する」齋藤専務語る

6月の波が町を巨撃

菱屋酒造店はベリ―来航 までの一季醸造。

の前年、嘉永5年(1855) 東日本大震災の日(今年2年)創業。150年超守 分の仕込みが終わりびん詰り続ける湧き水を利用し、の段階で、再雇用の方々がくず米や米粉を一切使用せず品質のよい酒だけを造り、午後3時で帰った後は5時まで通常業務という感じだったという。大津波警報を続けたという。大津波警報を元で愛飲されてきた。酒造 聞き、専務は蔵の近くの高台にある自宅に急いで戻り、11月下旬から3月中旬 台にある自宅に急いで戻ったところ、眼下の鍛ヶ

同社は地元向けの酒を醸す蔵として長年営業を続けてきたが、05年に著名な南部杜氏の辻村勝俊氏を杜氏として招いてからは、市外・県外への販売増に力を入れていた。

辻村杜氏は酒造りに50年以上携わり、90年頃からは青森の銘酒「田酒」を醸す西田酒造店の杜氏として田酒の評判を確固たるものに仕立てた経歴を持つ人物。純米酒が高い評価を受け、入手困難な酒として知られるようになったこともあり、辻村杜氏は「純米酒の名人」と呼ばれるようになった。西田酒造店と辻村氏との契約が切れた04年、菱屋酒造店では前の杜氏を交通事故で亡くしたため、以前に勤めていた菅原富男杜氏の紹介で辻村杜氏と契約を結んだ。その後、製晶ラベルに辻村杜氏の顔写真を入れ、高台にある自宅の庭で復興の酒と齋藤専務



高台にある自宅の庭で復興の酒と齋藤専務

津波を乗り越えた清酒の純米酒」の銘柄を新たに加えるなど、

津波を乗り越えた酒を再発見

震災後しばらくは瓦礫の山で近づくこともできなかったが、3月17日になって蔵に入ることで、1階部分の貯蔵庫から1升瓶約200本、4合瓶約500本ほどが無事に残っていることがわかった。運び出した清酒は「三浦隆子社長(82)の筆による従来のラベルに、復興を願うメッセージを加えた



津波に耐えた社屋。壁にはかつての木造部分の屋根の跡が白く残る

6月の波が町を巨撃